

事務事業	90	防災ボランティアの育成					
章	3	安全で快適な、みどりのあるまち					
大項目	02	災害に強い安全なまちづくり					
施策	02	地域ぐるみの防災体制づくり					
事業内容							
目的	防災サポーターとして再編成し、活発な活動を目指します。防災サポーター制度の発足を機に、当区の防災指導員と協力し、各防災区民組織の活性化を図ります。						
対象・手段	平常時の対策、災害時の活動に関する専門的な知識を持った防災サポーターの活動は、地域の防災力の向上を行うためには大きな力になっています。その活動も、平常時は防災対策全般の企画・相談・指導等、多岐にわたっています。災害時はその知識を活かし、避難所での迅速な活躍ができます。						
成果（事業が意図する成果）							
現在の防災サポーターは、いままで避難所情報ボランティア・防災アドバイザーとして防災知識の高いスキルを持ち、地域の防災活動で活躍していました。この活躍を踏まえ、登録数の目標値は150名から60名と減少しましたが、地域での実質的な活動を今まで以上に活性化させるため、制度の見直しを図り、統合しました。さらに、防災サポーターの活性化により地域との連携が深まり、住民の防災意識の向上と災害時の救出・救護体制の強化につながり、地域防災力の向上が図られます。							
事業成果指標							
指標名		定義			目標水準		
防災サポーター登録数		登録防災サポーター登録数 平常時と災害時の活動を兼ねたボランティア制度であり、両制度の実質的な存続を図り、かつ、より多くの参加を促すために各特別出張所6名で、合計60名としました。			(平成19年度に 60人の水準達成)		
防災アドバイザー登録数		防災アドバイザー登録数 平常時における防災普及啓発活動を主とし、地域防災協議会や避難所運営管理協議会への出席、防災資機材の操作指導など、活動は多岐にわたっています。			(平成16年度に 40人の水準達成)		
避難所情報ボランティア登録数		避難所情報ボランティア登録数 災害時に開設される避難所での情報収集活動を主としています。			(平成16年度に 110人の水準達成)		
成果の達成状況							
		単 位	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	備 考
事業成果指標	目標値 1	人	0.00	60.00	60.00	60.00	目標 1 については平成17年度から防災アドバイザー及び避難所情報ボランティアを統合し、防災サポーターの登録数としました。
	実績 1	人	0.00	58.00	56.00	56.00	
	= /	%	0.00	96.67	93.33	93.33	
	目標値 2	人	40.00	0.00	0.00	0.00	目標 2 については防災アドバイザー、目標 3 については避難所情報ボランティアの登録数でしたが、防災サポーターに統合したため、17年度以降は空欄です。
	実績 2	人	35.00	0.00	0.00	0.00	
	= /	%	87.50	0.00	0.00	0.00	
	目標値 3	人	110.00	0.00	0.00	0.00	
	実績 3	人	84.00	0.00	0.00	0.00	
	= /	%	76.36	0.00	0.00	0.00	
事業の実施内容							
平成18年度	防災サポーター56名登録（2名転出により減員） スキルアップ研修の実施。防災イベントへの参加、協力。						
平成19年度	防災サポーター56名登録 スキルアップ研修として防災士研修を受講し、防災士資格取得13名。防災イベントへの参加、協力。						

部名称		区長室		課名称		危機管理課	
		単 位	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	備 考
トータルコスト	事業費	千円	262	308	1,314	1,046	
	人件費	千円	0	0	2,192	0	
	事務費	千円	0	0	0	0	
	減価償却費等	千円	0	0	0	0	
	総計 = + + +	千円	262	308	3,506	1,046	
	受益者負担	千円	0	0	0	0	
	純計 = -	千円	262	308	3,506	1,046	
	受益者負担率 /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
財源内訳	一般財源 = -	千円	262	308	3,506	1,046	
	特定財源		0	0	0	0	
	一般財源投入率 /	%	100.00	100.00	100.00	100.00	
職員	常勤職員	人	0.00	0.00	0.20	0.00	
	非常勤職員		0.00	0.00	0.20	0.00	
事業に関する検討課題							
防災サポーターの平常時における防災普及啓発活動としては、地域防災協議会や避難所運営管理協議会への出席、防災訓練における防災資機材の操作指導、地域の防災イベントへの参加など多岐にわたっていますが、防災サポーター個々人の活動範囲を広げ、地域との連携として防災区民組織への浸透を図る必要があります。 また、より専門的な研修を行って、防災のエキスパートとして育成する必要があります。							
評価基準に基づく評価と理由	達成度	2	現在、定員60名のところ、56人の登録となっています。新規の加入の促進に努めます。				
	実施の成果	2	各種防災イベントや地域の防災訓練に積極的に参加し、防災意識の普及啓発に努めています。地域と連携し地域防災力の向上を図ることができました。				
	効率性	3	区民の能力や資格等を地域防災行動力の向上に活用するため、研修や講習、防災イベントへの参加については項目や実施方法を工夫しています。費用対効果から見て事業は効果的です。				
	行政の関与	3	区民の自主的な活動を地域防災行動力の向上を目指すため、その育成、フォローを区が行う必要があります。さらに区としては、より高度な研修を実施していきます。				
	妥当性	2	防災区民組織の育成という面から、これからも指導者への支援は必要です。地域の防災リーダーとして定員60名の充足を図ります。				
	施策寄与度	3	防災区民組織は高齢化等の課題を抱えているため積極的に活動できる人の育成は急務です。このため防災サポーターは区と区民の橋わたしとしても重要です。地域ぐるみの防災体制づくりに大いに寄与しています。				
総合評価	18年2月に避難所情報ボランティアと防災サポーターを統合し、防災サポーターとして発足しました。防災士資格も13名が取得し、地域の防災リーダーとしての資質も向上してきました。消防、警察、防災区民組織の意見交換の場である地域防災協議会や避難所運営管理協議会に出席し、防災区民組織の活性化に向けて効果が現れています。登録者数及び事業実績も概ね計画どおり推進しているため19年度の事業評価はBとします。 また、過去3年間の実績ではBと評価します。その内容は、登録者数が安定していることに加え、専門的な知識を持つ防災サポーターは防災資機材の操作指導などで区民の防災力を引き出し、災害時の活動を見据えて有効な役割を担っているためです。						B 過年度評価 18年度 B 17年度 B 16年度 B 15年度
	改革方針	今後も地域防災協議会や避難所運営管理協議会、防災訓練の場を通じて、発言や指導をする中で防災区民組織とのつながりを深めていきます。また、防災士研修の受講を継続するとともに、災害図上訓練・ワークショップなどの研修や防災知識向上のための講習を行い、スキルアップを図ります。 さらに、ふれあいフェスタ、神楽坂防災ふれあい広場等、地域でのイベントに参加し、活動の場を広げることで、防災サポーターとして区民の認知度を高めていきます。 今後は防災ボランティア活動をより充実させていくため、経常事業「防災ボランティアの育成」として引き続き実施していきます。					